

第 13 回日本マイクロ・ナノバブル学会学術総会

マイクロ・ナノバブルの効果発現メカニズムの解明
-社会実装に向けた気泡特性の評価-

医学部会ワークショップ募集要項

医学部会ワークショップ申請は 2025 年 8 月 9 日より
本会 Web ページ上で受付け開始

【講演会場】

明治大学駿河台キャンパス リバティタワー
メイン会場「リバティホール」
東京都千代田区神田駿河台 1-1-1

主催 一般社団法人日本マイクロ・ナノバブル学会

《医学部会ワークショップ募集要項》

第 13 回学術総会開催にあたり、医学部会ワークショップ（口頭発表）を募集いたします。
医学部会ワークショップ応募は本会 Web ページよりオンラインでの登録となります。
下記の要領をご一読の上、奮ってご応募ください。多数の研究発表のご応募をお待ちしております。

第13回学術総会
大会長 二ノ宮 進一

一般社団法人日本マイクロ・ナノバブル学会 評議員/工学部会
日本工業大学 基幹工学部機械工学科 教授

（１）募集期間

2025 年 8 月 9 日（土）～ 10 月 31 日（金）正午 締め切り

（２）応募資格

マイクロ・ナノバブルに関する研究発表であれば、会員・一般・学生を問いません。

（３）発表形式

口頭発表 : 15 分（質疑応答約 5 分程度を含む）

（４）応募方法

- ① 学会 Web ページよりオンライン登録のみとなりますので、演題登録画面からお申込みください。
- ② 抄録原稿（A4 縦 1 枚）を別紙の作成要領に従って作成し、登録フォームの指定箇所に添付してください。

（５）抄録原稿・発表スライド作成の留意点

- ① 研究に用いたマイクロ・ナノバブル水の「気体の種類」、「粒径」、「密度」、「溶媒種あるいは製品名」を本文中、若しくは抄録原稿、発表用スライドの最後に記載してください。
- ② ご自身の PC で発表される方は、HDMI 接続ができることをご確認ください。接続に不安のある方、もしくは当日学会が用意する PC を用いられる方は、発表用スライド（MS PPT）データを USB 等 にてご持参ください。演壇上に用意する PC は「Windows11、MS Office2021、他ソフト」を予定しております。
- ③ 発表用スライドの PDF 版を当日までに下記までご提出ください。

※ご不明の点は総会事務局にお問い合わせください。

E-mail : soukai_13@mnbsc.jp

(6) 採否の方法および通知

- ① 演題の採否は抄録査読委員の意見により大会長が決定します。
- ② 採否の結果は 後日メールにて通知いたします。

(7) 発表

- ① 発表する時間帯・セッションは、演題選定後に決定させていただきます。
- ② 各発表者（筆頭者）の氏名、演題名は最終プログラム決定後に本会 Web ページ上に掲載します。

■個人情報・著作権取扱について

日本マイクロ・ナノバブル学会のガイドラインおよび取扱規程によります。

<http://mnbsc.jp/admission> 著作権取扱規定（ページ最後尾リンク）

<http://mnbsc.jp/announce> 個人情報の取扱（ページ最後尾リンク）

★演題登録に関する注意事項

- ① 学会発表内容に特定の企業あるいは団体との利益相反（Conflict of Interest「COI」）が存在しないことを宣言いただくために、演題登録フォームの確認チェックボックスにチェック（COI は存在しません ☒）をお願いします。
- ② 抄録の著作権については「日本マイクロ・ナノバブル学会著作権取扱規程」に依ります。
▶ 発表内容を抄録提出の形でエントリーいただく際に、抄録はすべて学会に帰属する事に同意する旨のチェックボックス（同意☒）にチェックをしてください。
- ③ 発表内容の不正防止の観点より、第 13 回学術総会ではデジタル媒体として画像および音声記録をさせていただきます。この記録は原則外部公開を行いませんが、学会発表内容に疑義が生じた場合など、外部公開の必要性が生じた場合、発表者に了解を得た上で公開させていただきます場合があります。
▶ 本事項についても、記録主旨を記載した内容に同意する旨のチェックボックス（同意☒）にチェックをしていただきます。管理保全は総会事務局にて行います。
尚、上記に同意いただけない演題は採択対象から外させていただきます場合がありますので予めご了承願います。

備考：採択された演題の抄録原稿は、第 13 回一般社団法人日本マイクロ・ナノバブル学会学術総会 プログラム・抄録集に掲載いたします。

以上

(別紙) 第 13 回 日本マイクロ・ナノバブル学会学術総会抄録原稿作成要領・留意点

抄録は『演題名』『副題』任意『演者名』『所属名』『本文』『キーワード』任意

『研究に用いたマイクロ・ナノバブル水』 必須 『参考文献名』 で構成

(作成例)

○ ○ ○ ○ ○ (演題名: MS ゴシック 18pt)
 — ○ ○ ○ ○ — (副題あれば: MS ゴシック 14pt)

○***¹⁾, ***²⁾ (MS 明朝 10.5pt、筆頭演者(発表者)の前に○印)
¹⁾××大学××部 ²⁾△△大学△△部

(以下本文例)

(背景と目的、方法、結果、考察と結語、などに分けて記載. 基本全て MS 明朝 10.5pt)

【緒言】 ここに示すような小見出しをつけ、改行せずに本文を記載する。○○○○○○○
○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○^[1]。○○○○○○○次の小見出しの前に改行を入れる。

【目的】 句読点は全角ピリオド「。」と全角カンマ「、」を使う。○○○○○○○○○○○
○○
○○

【方法】 英数字 abc は半角に統一する。○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○^[2,3]。○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

【結果】 文字化けを防ぐために囲み文字、機種依存文字等の特殊文字を使用しない。○○
本文中に画像・図表を挿入する場合は原稿の範囲内とする。○○○○^[4-6]○○○○○○○○
○○

【考察】 抄録原稿のファイル名は必ず半角英数字、フルネームとする。○○○○○○○○○
○○
○○

【結言】 ○○○
○○ ◀

(研究に用いたマイクロ・ナノバブル水) (以下を本文中または参考文献の前に必ず記載)
「気体の種類」、「粒径」、「密度」、「溶媒種あるいは製品名」